

鳥取県日野郡江府町江尾方言の 比喩語について

友定 賢治

はじめに

1. 調査対象地

鳥取県日野郡江府町江尾は、県西部の中心都市である米子市から、南へ約30kmの中国山地中腹、日野川沿いに位置する。町内を通る国道181号線、JR伯備線ともに山陰山陽を結ぶ主要交通路である。世帯数は1198、人口は4551人（ともに1993年2月現在）である。

2. 調査年月日 : 1993年3月31日 午前10時~午後3時

3. 話者 : 徳岡和哉氏 (昭和6年生まれ)

福田岩雄氏 (明治35年生まれ)

4. 調査者・調査場所 : 友定賢治。 徳岡氏は町役場、福田氏は話者宅

5. 調査方法 : 所定の質問票による質問調査。なお、先に徳岡氏に聞き、後で福田氏に聞いた。福田氏には、徳岡氏の回答も提示して使用するかどうかを聞いた。以下の語形で、福田氏のみ回答には《老》と示す。徳岡氏のみ回答は、対照の都合上《中》と示す。☆印は質問項目以外のものである。

I 自然現象

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 1 日照り雨 | キツネノヨメイリ |
| 2 入道雲 | ニュードグモ、ユーダチグモ《老》、カミナリグモ《老》 |
| 3 旋風 | ツムジカゼ、ウズマキ《老》、タツマキノチーサエーノ《中》 |
| 4 霜柱 | シモバシラ |
| 5 つらら | カネコーリ、コーリ《中》 |
| 6 北斗七星 | ホクトヒチセー、ナナツボシ《老》 |
| 7 昴 | NR |
| 8 流れ星 | ナガレボシ、ホーキボシ、ハシリボシ《老》、ヨバエーボシ《老》 |

II 動物

- | | |
|--------|--------------|
| 9 かわはぎ | カワハギ、レンボー《中》 |
|--------|--------------|

「レンボー」についての語源説明を求めたが、分からないとのことであった。なお、『日本方言大辞典』にも「れんぼ 魚、かわはぎ (皮剥)。鳥取県米子市」とある。

- | | |
|----------|-------------------------|
| 10 ひらめ | ヒラメ |
| 11 ひきがえる | ヒキガエル、ヒキンボテ《中》、ウシガエル、ガマ |

「ヒキンボテ」は、「大きくて、ぼてっとしていることからか」という説明

であり、「ウシガエル」は、牛のような鳴き声からである。

- 12 青大将 アオダューショー
13 とかげ トカゲ
14 かまきり カマキリ、 カマカケ《老》
15 みずすまし ミズスマシ
16 きつつき キツツキ、 ケラコ《老》
17 せきれい セキレー、 カワラチュンチュン《中》
18 ふくろう フクロー、 ゴロクト

鳴き声は「ゴロクトホーサー ホッホ」と言っていた。

- ☆ カワガラス 山の中の、滝があるところなどで、滝の裏側に巣をつくっていた黒い、小さな鳥。《老》

III 植物

- 19 馬鈴薯 キンカイモ、 シナイモ《老》

「キンカイモ」は、丸くつるつるした形から。「シナイモ」については、「支那から来たからか」との説明である。

- 20 とうもろこし トーキビ、 トーキミ《老》
21 いんげん豆 ウズラマメ、 インゲン、 サヤクイ《老》
22 そら豆 ナツマメ
23 木くらげ キクラゲ、 ネズミダケ《老》

「ネズミダケ」は、「色が似ているからではないか」と説明があった。

- 24 げんのしょうこ ゲンノショーコ
25 どくだみ ドクダミ
26 いたどり シャジツポ、 シャジツポー
27 からすうり カラスウリ、 キツネノマクラ《老》
28 すみれ スミレ、 スモートリバナ《老》
29 春蘭 NR
30 母子草 ホーコー
31 おむの木 カーカノキ、 カーカンギ《老》

広戸惇『出雲方言とその周辺』には(p. 214)、「カーカノキ」が「合欵木」の開音による発音であるとの説明がある。

- ☆徳岡氏《中》によると、「スモートリグサ」とは、「おおぼこ」のことを言うとのことである。

IV 性向

- 32 熱しやすく冷めやすい人 ノボセモン、 ノボセマツ、 ノボセッケナヒト
33 あわてん坊 アワテンポー、 ウロタエケナヒト《老》(うろたえ気な人)、

- ソツツカシーヒト《老》(発音が「そそっかしい」ではない)
- 34 動作の鈍い人 チョロイヒト、 チョロクサエーヒト、 トロクサエーヒト
モトランヒト《老》
- 35 嘘つき ウソツキ、 センミツツ《老》
- 36 ほらふき オーブロシキ、 ラッパフキ《中》、 オーモノイー、 ドヒョ
ーシモナーコトユーヒト(ど拍子もないことを言う人)
- 37 おしゃべり オシャベリ、 ホーソーキョク《中》、 カンスズメクッチョ
ーヒト《老》(寒雀を食っている人)

「寒雀」はうるさくさえずるので。

- 38 冗談言い ジョーダングチ《老》
- 39 口先だけの人 オーブロシキ、 ホラフキ、 オーボラフキ、 ラッパフキ《中》
ジョーズグチ《老》
- 40 とんちんかんなことを言う人 ピントハズレ《中》、 ズレトルヒト《老》
- 41 のらりくらし煮えきらない人 ドンクサエーモン《老》(どんくさい者)
- 42 怒りっぽい人 カンシャクダマ、 カンシャクモチ
- 43 気むらな人 アテナランヒト
- 44 泣き虫 ヨー ホエルコ、 ホエゴ《老》

当方言でも、幼い子が泣くことを「ホエル」と言う。

- 45 おてんば娘 オテンバ、 ジャジャウマ《中》
- 46 腕白坊主 ワンバク、 ヤンチャポーズ、 ショーカラゴ《老》(塩辛
子)
- 47 出しゃばり デシャバリ、 デベスケ《老》(出臍+接尾辞「スケ」の変化か)
- 48 どこへでも顔を出す人 デシャバリ、 デベスケ《老》
- 49 家にこもって外出しない人 ヒッコモリ(ひっ込み)
- 50 小心者 ショートギモ

「ショート」という小さい鳥がいる。その肝だから。また、この鳥は人が近
付くとあわてたように逃げるから。

- 51 内弁慶 ウチベンケー、 ウチスバリ、 ソトスバリ
- 52 人付き合いをしない人・社交性のない人 ヘンクツ、 ヘンクツジン
- 53 妻に対して頭の上がない人 シリニシカレトルヒト、 コシマキオ
カブセラレトルヒト(腰巻を被せられとる人)
- 54 けち シマリヤ、 ケチンポー、 ニギリ
- 55 欲張り ニギリ

☆ハシカイーヒト(いらいらと忙しい人)

☆ハチブモン(ひとのいい人、ややばかにして言う)

V 食生活

- 56 大食漢 チューシヨクカ《老》、 オーメシグイ《老》、 ウシノヨーニクーヒト
- 57 ぼたもち ボタモチ、 オハギ
- 58 砂糖味が薄い サトーヤノマエオ カケアシデ トーウツタ《中》(砂糖屋の前を駆け足で通った)、 サトーヤノカドトーウツタ《老》(砂糖屋の庭を通った)
- 59 塩味が薄い ウスイー、 アマユー
- 60 大酒飲み ノミスケ、 オロチ、 チューシユカ (大酒家)
- 61 酒に酔ってくだをまく スイキョー (酔狂)
- 62 酒に酔って顔が赤くなる キンタロー、 キンタローノカジミマイ、 アカオニ
☆サカヤガトイー (酒を出さない時などに皮肉を込めて言う。)

VI 動作・様態

- 63 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま アカンナル
- 64 どしゃ降りの雨 ドシャブリ、 ウツスヨーナアメ(《水を》うつすような雨)
- 65 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる ヌレネズミンナル、 ヌレシヨボケル
- 66 服装がだらしないさま ダラシナユー、 キコナシガワルイー《老》
- 67 髭がのび放題なさま ブシヨウ
- 68 厚化粧をしている人 シロカベ《老》、 シラカベ《老》、 ハユーカーサン《老》(ハイカラさん)
- 69 背丈の高い人 セータカ、 セータカノッポ、 ズイキボクター《老》
「ズイキボクター」は、里芋のズイキが、ずっと高く伸びるさまから。ただ、
「ズイキボクターだから役にはたたん」のように、悪口で言う。
- 70 出びたい デコ
- 71 汗がひたいから流れ落ちる タキノヨーニナル、 アセコダレニナル
- 72 目を丸くする メガトビデル
- 73 口を尖らす タコ《中》
- 74 焦げ臭い匂い コゲクサユー
- 75 遠回りをする マワリミチ、 トーミチオスル
- 76 末っ子 オトンボー
- 77 一生懸命頑張る フンバツトル、 ギバム《老》、 バリキューカケチヨル《老》
(馬力をかけている)

まとめ

- ① 福田氏(明治35年生)と徳岡氏(昭和6年生)とでは、かなりの違いがあった。
《老》の数に注目されたい。比喩発想の語自体が徳岡氏には少なくなっている。個人

差という側面も考えられようが、年齢に因る点が大きいものと思われる。その理由として、福田氏の回答した比喻語のうち、地域的な広がりをもつ語がかなりあることが指摘できる。筆者が報告した岡山県新見市坂本方言との共有語も見られる。

- ② その岡山県新見市坂本方言では、話者の年齢は65歳～70歳であったが、福田氏との共有語を使用語として回答している。これは新見市坂本方言がより古い姿を示すことを意味しているのか、今後、検討していきたい。

[付記] 調査に際して江府町教育委員会のお世話になりました。記してお礼申し上げます。

(ともさだ けんじ 鳴門教育大学)